就職活動応援特集

写真で振り返る　近年の上下水道トピックス

施策動向

マネジメント転換、改正下水道法

2015年11月19日に改正下水道法が完全施行され、これまでの施設整備促進の時代から、維持管理・改築更新、そして運営を含めたマネジメント時代への転換に向けた舵取りが行われた。このほかにも、資源・自然災害対策として下水道が果たすべき役割、そして目指すべき方向性が示されている。

基盤強化へ、改正水道法

改正水道法が2019年10月１日に施行された。社会環境の変化の波の中で、水道施設の老朽化、頻発する自然災害対策の拡充強化、担い手たる水道職員不足など、山積する課題への打開に向け、「水道事業の基盤強化」を掲げており、その一方策として官民連携が打ち出されている。

災害対応

地震・豪雨災害で存在感

地震や豪雨では、管路の破断、処理場機能の停止による下水道の使用自粛などが発生し、被災者への心的負担増大や公衆衛生の悪化だけでなく、生命に関わる重大事ともなる。東日本大震災、熊本地震などの未曾有の大規模災害、平成30年７月豪雨といった広域水害などに見舞われた際、下水道のスペシャリストが人知れず活躍している。

命の水の安定給水へ役割

災害大国日本において、毎年のように自然災害が猛威を奮う。昨年10月の台風19号では、14都県の広域にわたり断水被害が発生。国、事業体、そして民間企業らが連携し応急給水支援や被災施設の復旧支援に乗り出した。生活の基盤である水道インフラは、平時・有事問わず彼ら水道関係者らの懸命な努力に守られている。

専門展示会

技術の祭典、下水道展

土木・化学・電気・機械・生物と、あらゆる分野の集合産業である下水道業界。それら最先端の技術・製品・研究成果が一堂に介するイベントが下水道展だ。例年、夏期に開催され、300社超の団体・企業が出展し、数万人が来場する。今年はコロナ禍により中止を余儀なくされたが、来年は大阪市で開催が予定されている。

産官学交流の場、水道展

例年秋期に開催される水道展。展示内容は世相を反映し、水道事業の強靱化、効率経営、適切な資産管理等に資するハード・ソフト技術群が集結する。産官学の情報交流の場として、プラットフォーム的な役割も担っている。今年はコロナ禍で中止となったが、来年の開催が期待される。